

# みなさんといっしょに 実現しました

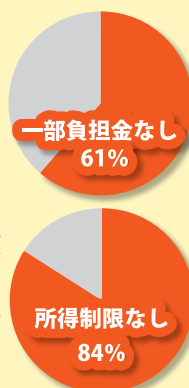
## 子どもの医療費助成制度 中学3年生まで広がります

2019年4月から、医療費助成制度の対象年齢が通院・入院ともに中学3年生までに広がります。

長年の市民の要望で、日本共産党市議団も何度も議会

で要求してきた制度の拡充が、ついに実現します。

しかし依然として、一部負担金が必要で、一定の収入を超える助成対象から外れる「所得制限」があります。



全国では、一部負担金も所得制限もなしが多数派をなくすことを求めました。

すべての子どもが安心して必要な医療を受けられるよう、完全無料にし、所得制限をなくすことを求めました。



市民が4220筆の署名提出



市議団が緊急要望



中学校を視察しました

これまでの消極的な姿勢を転換する大きな前進です。しかし、小学校は2021年、中学校は2022年の完了をめざすとのことで、すべての学校に設置されるのは4年後です。

**命にかかわる危険な状況**

今年の夏、室温が40度を超えた学校もあります。

学校で熱中症になった児童・生徒は43人、救急車の出動は7件に及びます。

**計画の前倒しを**

同規模の教室数でも1年で設置させる自治体もあります。他市の手法を学び、計画を前倒しして緊急に設置するよう強く求めました。

**統廃合対象校にも設置を**

また、市教育委員会は学校統廃合計画の対象校にはエアコンを設置しないとしていましたが、等しく設置するよう求め、市教育長は「適切な学習環境となるよう対応する」と答えました。

最高室温  
40℃!

でも  
4年後は遅すぎる!

## 小・中学校の教室にエアコンが設置されます

福山市は、補正予算として、7月豪雨災害関連に72億7660万円、その他に、学校のエアコン整備や子ども医療費助成などの経費を追加しました。日本共産党市議団は、予算案に賛成しました。

補正  
予算  
82億509万円

## 災害から市民の命とくらしを守る福山市に



第4次要望提出=8月21日

7月の豪雨災害を受け、福山市の防災対策に多くの課題が浮き彫りとなりました。豪雨、台風、地震、各地で自然災害が猛威をふるうなか、今回の災害を徹底検証して教訓を導き出し、万全の対策をたてる必要があります。

議会質問や市長要望で改善を求めました。一部をお知らせします。

### 要望

福山市に要望したこと

- ▼避難場所や経路、避難情報について、市民アンケート調査を行い、改善すること
- ▼避難所のバリアフリー化と、要配慮者の福祉避難所受け入れ体制の改善を行うこと
- ▼すべての河川の治水計画をたてること
- ▼排水ポンプ車を購入すること
- ▼雨水貯留槽と止水板の設置補助制度をつくること
- ▼砂防ダムにたまった土砂の定期撤去を県に求めること
- ▼すべてのため池の状況を調査し、必要な対策をとり、ハザードマップをつくること
- ▼民有地の山などの土砂崩れを、国の事業を活用し、復旧すること。国の補助の対象外の場合は、独自の支援制度をつくること
- ▼すべての避難所に食料など一定の備蓄をし、市民の非常持ち出し品購入の補助制度をつくること
- ▼「床下浸水」も被災者支援制度の対象とすること
- ▼災害見舞金を増額すること
- ▼災害時の対応や日常的な防災体制の強化のため、正規雇用の市職員を増やすこと
- 太字部分は、「検討する」との答弁や市として県・国に要望するなど、一定の前進したものです。引き続き、改善に力を尽くします。

### 実現

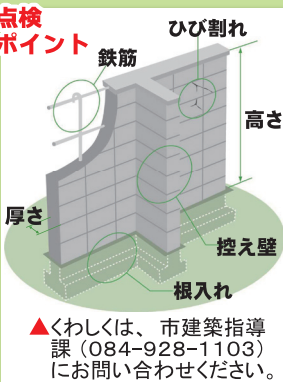
改善を求め、実現したこと

- ▼民有地の土砂の撤去・費用の補助
- ▼墓苑・墓地の土砂の撤去についても、市は二次災害の恐れがある場合などは検討する。被災者の話を聞き、対応する」と答えました。
- ▼被災者支援相談窓口の開設
- ▼電話(084-928-1284)
- ▼制度説明
- ▼り災証明は、判定に不服があれば、再調査を申請できます。
- ▼り災証明の手数料の無料化
- ▼し尿のくみ取り料金の全額免除
- ▼被災業者支援の申請窓口の市内設置

### 危険なブロック塀の撤去を

大阪北部地震では、学校のブロック塀が倒壊し、小学生が亡くなる事故が起きました。市内にも、21か所の小・中学校と幼稚園で安全基準に満たないブロック塀があります。早急な対策を求め、「解体・フェンス設置工事の早期完了をめざす」との答弁がありました。また、民家などの危険なブロック塀の撤去を促進するため、費用の補助制度をつくることを求めました。

市教育長は、「関係部署と連携する」と前向きに答えました。



村井あけみ



高木たけし



土屋ともり



河村ひろ子